

つある。東部アジアにおける季節風の問題に関連して東部アジアの自由大気的气候学と総観気象の分野において沢山の仕事が行なわれている。測器に関する仕事もまた始められているが、このことに関してラジオゾンデの湿度測定改良があげられる。農業気象の仕事も始められたばかりである。これらの二つの分野は高層大気の物理と同じように中国ではまだなすべき点が沢山残っている。

わが国の気象学の急速な進歩の必要に迫られて、多くの配慮が気象要員の養成に払われている。緊急の必要から、われわれは先ず初期において、短期間に観測官と予報官を養成し、後に気象養成の大学が作られた。南京大学には気象学部があり、北京大学には物理学部に気象学科がある。海洋及び気象学科は、今や青島大学や北京農科大学の農業気象学科において開かれている。これらの学校には各クラス 50人乃至 100人の学生がいる。その上 2年の卒業課程があり、それによって気象学には、総計 1000人か 2000人位の学生ということになる。彼等は理論的にも実際的にもよく訓練され、これはスタッフの主要

なる供給源なのである。殆ど全部の地方や県の気象局にはそれ自体の観測員養成所がある。中心気象局は技術員のための養成を維持している。これらの方法を通じてわれわれは気象業務のために約一万人の技術員を過去七年間に養成して来た。

以上がわが新中国における気象事業の概略である。万事が急速に進歩し、われわれが最善をつくして避けようとしても、ある種の欠点は逃がれない。われわれの気象業務の弱点が、如何なる点にあるかよく承知しておられる皆様から御忠告と御意見が頂ければ、われわれとしては大変ありがたいと思う。

ここでお話し申上げる機会を私にあたえて下さった御好意と、この簡単な概略を聞いて下さることに興味を示して下さったことを、皆様に心より感謝の意を表わしたい。何なりとも、更に御質問のおありの節には、私の知り得る限りをつくしてお答え申したい。

(1957年 6月、ストックホルムで催された  
“N. P. シンポジウム”において)

学 界 消 息

1. 島山理事長ら国際会議に出席

本学会理事長の島山久尙氏は、アメリカ空軍地球物理学研究部主催の下に ニュー ハンプシャー州ポーツマスにおいて、5月20日から23日にわたって行われる第2回気象電気学会議に出席されるため、5月16日羽田空港を立たれた。なお本学会会員の北川信一郎氏および田村雄一氏、金原淳氏も同行された。

2. オゾン技術検討会開かる

さる3月28、29日に高層気象台でオゾン技術検討会が開催され、オゾン観測経過、観測指針、観測技術などについて論議された。

3. スペクトロフォトメーターによるオゾン観測始まる

IGYにおけるオゾン観測として、スペクトロフォトメーターによる観測がルーチ的に始まった。各地にお

ける開始日はつぎのとおり、

館 野	1957年 7月 1日
鳥 島	〃 11月 1日
マーカス島	〃 12月14日
札 幌	1958年 1月21日
鹿 児 島	〃 2月27日

4. 婦人科学者の会 生まる

本学会の会員 猿橋勝子博士などが中心となって、日本の婦人科学者の会が、去る4月26日学士会館で誕生した。会の目的は婦人科学者の地位を向上し、知識の交換と親睦をはかり、世界の平和に貢献すること。

発足にあたって本学会理事長 島山久尙氏からも祝辞がおくられた。